

文化財の動態保存
市有形文化財による動態保存のモデル
Dynamic preservation of cultural properties
Model of dynamic preservation by my tangible cultural heritage

○石川晃¹, 小林直明²*Akira Ishikawa¹, Naoaki Kobayashi²

In recent years, the Agency for Cultural Affairs has promoted the advancement of protection and utilization of important cultural properties. Cultural property is a valuable national asset that was born, nurtured in a long history, has been protected until today. It is indispensable for understanding the history and cultural traditions of various people and the countries of the world and at the same time forms the basis for the development of the culture of the world countries. As a place to utilize such cultural properties in the original use "to save while using: dynamic preservation" as the theme, planned as a private night in this plan.

1. はじめに

近年, 文化庁により重要文化財の保護と活用の進展を促進している. 文化財とは, 長い歴史の中で生まれ, 育まれ, 今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産である. 様々な人々と世界の国々の歴史や文化的伝統の理解に欠くことができないのもであると同時に, 世界の国々の文化の発展の基礎となるものである. そのような文化財を本来の用途にあわせることで, 「使いながら保存する: 動態保存¹⁾」をテーマにする.

2. 市有形文化財の動態保存

市有形文化財の歴史的な価値を守りながら有効に使い続ける動態保存を実現するために, 現代の生活に必要な住宅機能を別棟に設計することで, 文化財を変えることなく, 利用することができるようにする. 今回の計画では, 当時の武家屋敷には存在しなかったお風呂と文化財にある台所を食事処として別棟を設ける. これにより新設の別棟とともに文化と機能の発展継承を実現する動態保存のモデルとする.

3. 計画背景

新潟県村上市には, 昔の建物が多く保存されており観光スポットになっている. 観光スポットには, 村上城跡, 旧若林家住宅, まいづる公園, 海水浴場, 瀬波温泉が挙げられる. 村上市に来る観光客が主に向かう先は, 海水浴場と瀬波温泉が多く, 文化財の方には国指定有形文化財である村上城の方に人が流れてしまい, 旧住宅を見に来る観光客が少ない. そこで行う計画として, 文化財である旧住宅を観光客の民泊として使用することで, 新潟県村上市に保存されている文化財に, 触れる機会を増やし, より深く興味を持ってもらい保

護と活用の進展を促進する.

4. 計画敷地

当地区は, 新潟県村上市庄内町のまいづる公園である. この公園は, 皇太子殿下, 皇太子妃殿下のご成婚を記念した公園であり, 雅子妃殿下のご祖母, 静様の父方の実家にあたる武家住宅の旧嵩岡家住宅の他, 旧岩間家住宅, 旧藤井家住宅の 3 軒の市有形文化財が移築復元されており, その他の建物として表門, 東屋, 展望台, 公衆便所が現存している.



写真 1. 敷地とその近辺

5. 基本計画

5.1. 本館

今回の計画敷地には 3 棟の市有形文化財が保存されている. 3 棟とも武家屋敷であり, 武家屋敷特有の官舎的な正確を有する, 厳しい建築規制, 閉鎖的な屋敷構えの特徴が現在まで守り続けられている. 今回の計画では, この 3 棟を民泊として使用することにより, 建物の文化的伝統と歴史を体験という形で活用する.

5.2. 別棟

別棟では, 食事処の入っている温泉施設を計画する.

1: 日本大学・学部・海建 Department of Oceanic Architecture & Engineering, CST.Nihon-U

2: 日本大学・教員・海建 Department of Oceanic Architecture & Engineering, CST.Nihon-U

この別棟のデザインは、市有形文化財の建築としての歴史のおよび文化的魅力を損なわず、公園内の各建物とのバランスを考慮しながら市有形文化財の背景になるような外装デザインを考えている。食事処では、郷土料理や実際に食べていた武士の食事を食べる場所として計画する。

6. 建築計画

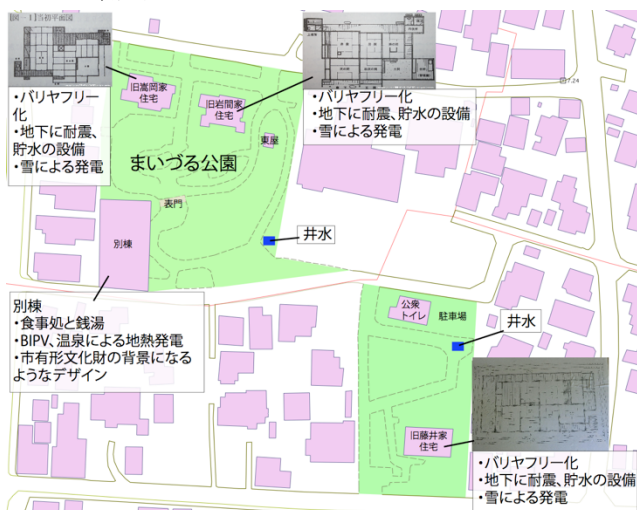


図 1. 建物の配置と計画

6.1. 別棟におけるエネルギー設備設置

市有形文化財の環境配慮を目的としたエネルギー設備を BIPV (太陽光パネルを身に纏う建築) や温泉による地熱を用いた発電、雪国特有の雪を使用した発電、過去に存在したと考えられる井戸を使用した水利用設備の設置を行う。



写真 1. BIPV を使用した瓦

6.2. 文化財の活用のためのバリアフリー化

観光名所として数多くの観光客が訪れる文化財について、重い荷物を持った人、障害のある方、高齢者を含む全ての人々が、より快適に親しむことができる環境づくりが必要である。3 軒の市有形文化財には、各部屋の床が 75cm ほど地面から上の位置に存在している。建物に入ることができる台所と表玄関には段差が必ず

存在している (写真 2)。これらは雪国特有のものであり、建物の中に雪が入らないようにするための工夫である。そのため建物内に入るには何かしらの段差が存在する。今回のバリアフリー化として、段差をなくするための着脱式スロープ、表玄関には段昇降機の取り付けが必要であると考えている。また、トイレと表玄関には補助手摺、建物の床を保護し、畳にある少しの段差を敷物により防ぐことも検討中である。



写真 2. 表玄関も段差

6.3. 地震から文化財を守る

文化財になるような建物は長い間、地震や風雨に耐えて残って来た。そのため安全であると考えられてしまう。しかし、全ての古い建物が必ずしも地震に強いわけではない。文化財は大きな地震の経験がないものも多く、地震で被害を受けた結果、文化財の価値を落としてしまうことがある。いかに文化財的な価値を損なわずに耐震対策を実施するのが重要となる。耐震補強の方法として、壁面や細部、水平面の補強、部材の綱手の補強、基礎の補強、地盤の補強、建物の重量の軽減が考えられる。今回の計画では、地盤改良、基礎の補強を重点的に計画していく。

7. 参考文献

- [1] 小林直明 文化財建造物のサステナブルエネルギー利用 (重要文化財:自由学園明日館)
- [2] 地震から文化財建造物を守ろう Q&A, <http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/hogofukyu/pdf/pamphlet.pdf#search=%27文化財+木造建築+耐震%27>, 2018年9月24日
- [3] NAVER まとめ 雪を利用して発電ができる, <https://matome.naver.jp/odai/2135590120920038101>, 2018年9月20日

注記

1) 「自由学園明日館の保存と再生」2011年建築学会賞(業績)における論文で使用した用語。元来は機械分野の用語。その後建築界においても「動態保存」の用語が使用されるようになった。